

「自ら学ぶ人」「豊かな心を持つ人」「すこやかに生きる人」

発行 足立区立入谷南中学校



南中だより

発行日 令和6年2月22日

2月号



HP <http://www.adachi.ed.jp/adaimi-j/>

逃げていく二月に思うこと

校長 遠藤 映悟

「一月往ぬる 二月逃げる 三月去る（読み方：いちげついぬる にげつにげる さんげつさる）」

正月から三月までは行事が多く、あっという間に過ぎてしまうことを、調子よくいったものだそうです。わかりやすくいうと「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る。」です。

さて、その逃げていく二月ですが年度末の学校は本当に慌ただしく逃げるように過ぎていきます。3年生は都立高の推薦入試発表や私立高校の入試、2月1日には前期・一次入試もあります。また、1年生から3年生まで学年末考査もあり、なかなか大変ですね。二月が終われば三月。卒業式や修了式で令和5年度が締めくくられます。

ところで二月はなぜ、28日までしかないのでしょうか？（もっとも今年はどういう年なので29日ですが）国立天文台のHPには次のように書いてありました。「二月だけ28日しかないのも、うるう年に日数が変わるのも、どちらも古代ローマで使われていた暦において、現在の二月にあたる月が1年の終わりの月だったためです。」どういうことなのでしょう？これも国立天文台のHPにありました。現在私達が使っている暦は、古代ローマの暦が元になっています。紀元前8世紀頃のローマで使われていたとされる「ロムルス暦」では、月は10しかなく、農業をしない冬の期間には月日が割り振られていませんでした。いまの3月から12月にあたる月は、ロムルス暦の時代から存在していますが、いまの1月と2月にあたる月は、当時はまだありませんでした。（中略）ユリウス・カエサル（ジュリアス・シーザー）の時代には、暦が季節に比べて2ヶ月以上も進んでしまっていました。カエサルは暦を改革し、平年を365日、4年に一度のうるう年を366日とする「ユリウス暦」を制定し、紀元前45年から使い始めました。ユリウス暦では年の始めはIanuariusと定められ、Februariusは「2番目の月」になりました。また、ヌマ暦で日数が29日だった月は、ユリウス暦では日数が30日か31日に変更になりました。しかし、Februariusは日数を増やさず、ヌマ暦と同じ28日のままになりました。これは、Februariusには宗教的な意味合いの強い祭礼が多くあったため、混乱を避けるために日数の変更を避けたためと考えられています。こうして、それぞれの月の日数が現在と同じになりました。

ユリウス暦では、4年に一度うるう年を入れて1年の長さを調整します。1年の始まりの月はIanuariusですが、Februariusが「年末」という意識は根強く残っており、カエサルはヌマ暦と同様に、Februariusをうるう年の日数の調整に使うようにしました。このため現在でも、二月の日数を変えることで、うるう年の日数の調整をおこなっているのです。ただし、当時は祭礼の日付変更を避けるために、2月24日を2回繰り返していました。その後、うるう年には2月28日の後に29日を置くというやり方になり、現在に至っています。（注：昔の暦については正確にわかっていない部分もあり、まだどの説が正しいとは言いきれませんが、現在有力だと考えられている説を紹介しています。）

こんな理由だったんですね。本当にインターネットは調べ物をするとき便利ですが、その情報が正しいかは、なかなか判断が難しいですね。私は今回二月の案件を調べるときにあえて、国立天文台のHPを確認しました。それは日本の国立天文台の主な仕事が「星を観測して経緯度の決定、暦の計算、時間の決定を行うことだからで、このことは明治時代の国策として始まりましたが、現在も天文台の仕事の一部として続けられている。」からです。だから、暦（こよみ）のことを調べるならここしかないと考えたのです。今インターネット上には様々な情報がありますがその中には間違っている、あるいは、あえて偽の情報（フェイク）を発信していることがあります。お手軽なインターネット検索ですが、それが正しいか間違っているかを十分に確認しないと、偽の情報（フェイク）をばらまくことに加担してしまうことが起こります。場合によっては犯罪者として検挙されてしまうことがあるかもしれません。生徒の皆さんは十分に注意してください。

逃げていく二月ですが、あたふたして流されずに、入試や学年末考査をきちんと乗り切って令和5年度最終の三月を迎えてほしいと思います。皆さんが待ち望んでいる春はもうすぐそこまで来ているのですから。

1年生 家庭科の調理実習開始

コロナ禍で中止となっていた調理実習を再開しました。1年生では初めに衛生管理や器具の取り扱い方、その後「野菜・肉・魚について」の調理実験をしました。加熱前と加熱後の様子を観察したり添加物（麹や調味料、果物など）を加えたりすると柔らかく調理できることなどを学びました。また、2月初めに『きゅうりとわかめの酢の物・豚肉の生姜焼き』を作りました。どの班もとても上手に作れました。校長・副校長も試食をしました。お酢や香味野菜を使い、減塩を意識した素晴らしい出来でした。



表彰の記録

今回も、非常にたくさんの生徒が表彰されました。入谷南中学校の生徒のみなさんがあらゆる方面で頑張っていることを改めて認識いたしました。

★足立区「地球にやさしいひとのまち」
ポスターコンクール中学生部門 銅賞

・1年 笠原 颯介

★足立区連合書初展覧会

・3年 村田 真緒莉【金】

・3年 盛田 ゆい【銀】

・2年 横矢 はな【銅】

・2年 黒岩 光里【銅】

・1年 笠原 颯介【銅】

★足立区教育委員会生徒褒賞

・3年 西野 日菜子【教育委員会賞】

・3年 盛田 ゆい【教育委員会賞】

・3年 阪口 千歳【区長賞】

★善行青少年顕彰

・2年 根本 潤 ・ 2年 高橋 海翔 ・ 2年 安田 麟太郎

9月9日（土）の13：30頃、下校途中でおばあさんに「武井医院はどこですか？」と聞かれた。おばあさんは足が痛く病院に行く途中だった。道を教えて帰ろうとしたが、おばあさんは足が痛いようでうずくまってしまった。そのため、クラスメイト3人で一緒に病院に連れて行った。

・入谷南中学校生徒会（代表：黒岩 光里）

常に規律正しい学校生活をおくり、他の生徒の見本となり、校内の風紀が向上した。また、全校生徒の代表として、校内の環境や決まりについて校長や生徒会担当教員と話し合い、その内容を「生徒会交流会」で発表した。さらに、生徒会新聞を毎月欠かすことなく発行して生徒や保護者に生徒目線での学校生活の様子を伝えることができた。

★図書館を使った調べる学習コンクール

・1年 鈴木 勇人 『絶滅危惧種について考える』 【足立区：入選・全国：佳作】

・1年 伊瀬知 のえる 『これを見れば天気予報士』 【足立区：学校賞】

・1年 栖原 知世 『ゴリラのすべてを知りたい』 【足立区：学校賞】

・1年 合寶 凜菜 『トランポリン競技について』 【足立区：学校賞】

★吹奏楽部 東京都中学校第57回アンサンブルコンテスト 銀賞

・2年 岩尾 優希 ・ 小林 未依 ・ 高橋 樹 ・ 中村 颯志 ・ 平岡 紀代

★第62回東京都中学校ロードレース大会 男子1年3km競走 6位

・1年 今井 亮汰

